

年頭のご挨拶



農業委員長
沼田 浩子

「我が家の農地を集落の宝として残すために」

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は農業委員会業務に対しましてご理解ご協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

農業を取り巻く情勢は依然として厳しい中、昨年6月に「食料・農業・農村基本法」が施行されました。その理念には、農業者の減少等が生ずる状況においても、食料の供給機能や多面的機能が発揮され、農業の持続的発展が図られなければならない旨が明記（第5

条）されました。

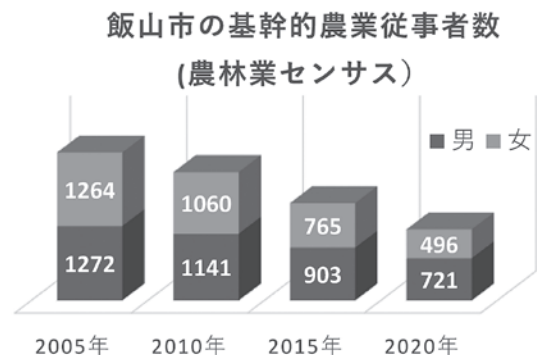
全国農業協同組合中央会が農林業センサスを元にまとめた基幹的農業従事者※人口推計によると、2020年に136万人とされた基幹的農業従事者が2030年には83万人となり、2050年には36万人と、30年間で100万人（7割）減少するという見通しが示されています。飯山市においても次の図のとおり、この15年間で基幹的農業従事者は半減しており、農家の減少に歯止めがかからない状況です。

想像してみてください。あなたの家の農地は10年後誰が耕作していますか？自分の家だけではどうにも管理出来ない農地はどうしますか？個々で悩むのではなく、地域全体で農地の未来を考え、農地が荒れる前に引き継いでいく計画を立てましょう！というのが、現在、全国各地の農業委員や農業関係者が取り組んでいる「地域計画」です。

飯山市では市内10地区で

各農業再生センターが中心となって、毎年地域の人が意見を出し合い地域計画を立てていくことになっています。「我が家の農地を集落の宝として残すために」「我が家の農地が地域の困り事にならないために」皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

※基幹的農業従事者（農業就業人口の内、普段仕事として自営農業に従事している者）



研修視察報告

11月下旬、木島平村と外様のカントリーエレベーターの視察を行いました。

カントリーエレベーターの基本的な役割は、収穫された籾を受け入れ、乾燥、調製、保管を行うことです。収穫直後の籾は水分が多く、そのまま保管すると品質が劣化します。そのため専用の乾燥機を用いて適切な水分量に調整し、ゴミや異物を除去して、粒の大きなや形を揃えることで商品価値を高めます。

さらに、収穫時期や品種ごとに適切な管理を行い、



乾燥・調製を一括して行うため、農家の負担が軽減し作業効率が向上します。これにより、高齢化や担い手不足が課題の農村地域で、農業の持続可能性が支えられます。

今回は、普段は見ることでできない貯蔵ビン内も見学させていただき、大変勉強になりました。

また、木島地区の堤外の遊休農地が再生された場所を見学しました。木島地区農業再生センターにとって長年懸案の土地でしたが、農業法人が無償で借り受ける形となり、周辺遊休農地も順次再生していくようです。

あしあと 11・12月の活動記録

11月 6日	農業委員会役員会
21日	長野県農業委員会大会
27日	11月農業委員会総会
〃 日	管内視察
12月 9日	農地相談
〃 日	農業委員会役員会
25日	12月農業委員会総会

有機農業・有機給食等に関する懇談会を開催



11月22日「有機農業・有機給食等に関する懇談会」を市役所で開催し、市内で有機的農業に取り組む若手農業者3名を招き、市長、担当課職員および農業委員6名と意見交換を行いました。

最初に、市内中学校の給食での特別栽培米の提供とその残量（食べ残し）調査と、茨城県常陸大宮市開催されたオーガニック給食フォーラムについて担当課職員から説明がありました。

意見交換では参加した若手農業者から、減農薬から無農薬を目指し、有機JAS認証の取得に向けて取り組んでいることや、完全オーガニック店舗への販路拡大、

また農産物そのものだけでなく6次産業への事業拡大、薬物野菜のネット販路やコラボ商品の開発など、積極的な有機農業への取り組みを聞くことができました。

市に対しては、行政による除草等の農業機械貸し出しや、有機的農業の推進の一助として有機JAS認証の地域認証所得の提案等がありました。また、有機給食については、近隣市町村の先行事例を踏まえて当市でも取り入れてほしいとの意見が出されました。

農業委員からは、米を主とする飯山市の農業における有機的農業への課題、その目的等について慎重に検討すべきとの意見もありました。

最後に市長の目指す農業者の所得向上の方策としてのどのような農業スタイルが飯山市において有効なのか、また、有機給食に関しては米の供給状況や食味、給食費無償化との調整等、さらなる意見交換が必要として閉会となりました。

飯山ブランド米研究会について

飯山ブランド米研究会会長 水野 尚哉



この会は平成29年に飯山市内で米づくりを営む個人や法人の有志が集まり発足しました。

「飯山の美味しいお米をたくさんの方に知ってもらおう」「飯山米の価値を高めていくじゃないか」そのために飯山市内の米づくりを営む方なら誰でも入会できるスタンスで今日まで活動してきました。

1、情報共有ツールで有益な情報を共有

農業界は今、日々情報がアップデートされています。よりスピーディに、よりタイムリーに新鮮な情報を共有できるように今年度から SNS ツールを用いて相互情報共有を行っています。有益なニュースや講習会情報などを共有することにより知識や技術の向上に寄与できると確信しています。今後も希望者には SNS グループに招待して情報共有を積極的に行っていきます。グループ入会ご希望の方は二次元コードから参加してください。

2、会員の農業所得向上を図る

昨今の米情勢はとても不安定です。安定した農業を営むために農家単体から法人まで農業所得の底上げをしていかなければ美しい里山を維持できません。そのために今年度から「環境保全型農業直接支払交付金」に取り組んだり、契約栽培希望者の紹介や買取あっせんなど、現場に寄り添った活動を行っています。今後はさらに所得が安定して、安心して営農していける事業を展開していく予定です。

3、飯山米をより多くの方に知ってもらう&価値をあげていくために米コンクールへの積極的な出品や学校給食米へのアプローチ

飯山のお米は世界的なコンクールでも評価を得られていて、胸を張って「美味しい」と言える米です。ポテンシャルが非常に高く、栽培環境はとても良いのですが、全国的な認知はまだまだ他の優良産地に及びません。そこで、これまで個人で出品していたものを「飯山ブランド米研究会」の会員として出品することで、産地としての認知度を高める広報活動を行っています。

学校給食米の意見交換会に積極的に参加し、子どもたちへの未来の話し合いにも生産者の立場で参加しています。

現在、飯山市や農業再生協議会や JA ながの等にもご協力いただいています。多くの方々に支えていただきながら今後も理想を現実、に、会員の声も実現できるような会にしていこうと思います。



SNS グループ
の二次元コード
はこちら